



第114期
株主通信

2014.4.1 ▶ 2015.3.31



富士急行株式会社

証券コード：9010



©2015 Anne Gutman & Georg Hallensleben / Hachette Livre



CONTENTS

ごあいさつ	1
FUJI-Q TOPICS (Year In Review)	2
FUJI-Q News	4
・新規施設オープン	
・富士急グループ「2015-2017年度」中期経営計画	
事業別概況	8

連結財務諸表	10
単独財務諸表	12
会社概況／株式情報	14
単元未満株式の買取・買増制度のご案内	15
株主優待のご案内	16



株主のみなさまには、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第114期におけるわが国経済は、消費税率引き上げや物価の上昇などにより消費マインドは低迷したものの、政府の経済政策や日本銀行の金融緩和策などを背景に企業収益や雇用環境に改善が見られ、緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況のなか、当社グループは運輸、不動産、レジャー・サービス、その他の各事業にわたり積極的な営業活動と経営の効率化に努めてまいりました。その結果、当期営業収益は489億71百万円（対前期102.7%）、当期経常利益は36億94百万円（対前期118.4%）、当期純利益は20億58百万円（対前期138.7%）となりました。当期における各事業の具体的な取り組みは、8ページ以降に記載しておりますので、ご高覧くださいませようお願い申し上げます。

今後につきましても、当社グループを取り巻く事業環境は、企業収益に改善がみられるなど今後の好循環が期待されるものの消費マインドの回復は鈍く、人手不足や電力料金、燃料価格の動向など引き続き不透明な状況が続くものと考えられます。

こうした状況の中、平成27年度からスタートする第四次中期経営計画では、富士急ブランドの更なる価値創造を図るため、「FUJI-Q RESORTS戦略」を推進してまいります。今後ますます増加が予想される外国人を含めた多くの観光客に、個性と特色を持つ運輸、不動産、レジャー・サービスの各施設を結びつけた統合的観光を提案し、お客様を増やしていく仕組みを構築してまいります。

運輸事業につきましては、引き続き運輸安全マネジメントを実践し、輸送の安全確保を第一に取り組んでまいります。鉄道事業では、成田エクスプレスの継続運行をはじめとした首都圏からの直通列車の拡充や特急車両の更新などを図ってまいります。バス事業では、高速道路網の整備に伴い富士五湖への高速バスアクセスを拡充してまいります。また、富士山周辺における乗合バスのネットワークの一層の充実を図るため、「FUJI-Q RESORTS戦略」の一環として、エリア内での乗降が自由で包括的な「富士山・富士五湖パスポート」を導入し、利便性の向上に努めてまいります。

不動産事業につきましては、山中湖畔別荘地、十里木高原別荘地でエリア内の取引活性化を促進するとともに、当社グループ施設との連携を強化し、別荘地エリアの付加価値向上を図ってまいります。社有地の有効活用による賃貸事業化にも引き続き取り組んでまいります。

レジャー・サービス事業につきましては、「FUJI-Q RESORTS戦略」の一環として、テーマ性を持たせた特色ある飲食・物販併設型の観光施設を山梨県忍野村に新設いたします。また、「リサとガスパールタウン」にパリの街並み、高品質なスイーツ、富士山の眺望を融合させたスイーツカフェを建設し、国内外の幅広いニーズに対応してまいります。

また、引き続き「120%の安全」を当社グループの最優先課題と位置づけ、徹底した安全管理に努めてまいります。さらに、女性の活躍を支援するため、平成27年4月の企業内保育施設の開設をはじめ研修等によるキャリアアップの取り組みを加速させ、12月に策定した「女性管理職登用に関する自主行動計画」を実行してまいります。また、コンプライアンスを遵守し、企業価値の向上に努めるとともに、平成27年5月施行の改正会社法及び6月適用開始のコーポレートガバナンス・コードに適切に対応し、統治機能の強化と充実を図ってまいります。

当社グループは、「夢・喜び・やすらぎ・快適・感動」を提供するアメニティビジネスのリーディングカンパニーを目指してまいります。株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年6月
代表取締役社長 堀内 光一郎

FUJI-Q TOPICS



富士本栖湖リゾートで
「2014 富士芝桜まつり」
開催(～6月)



4月

5月

遊園地ぐりんぱで
「天空のチューリップ祭り」
開催(～6月)



6月

7月

新型フジサン特急
「8000系」運行開始



成田エクスプレスが
成田空港駅から河口湖駅
まで直通運転(～11月)



8月

高速バス「福岡・北九州～
静岡・富士山線」運行開始



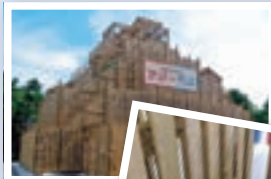
9月

Year In Review

富士急ハイランドに、
「富士飛行社」オープン



遊園地「Grinpa」に、
「アリス・ト・テレス」オープン



さがみ湖リゾート
プレジャーフォレストに、
「大空天国」オープン



10月

11月

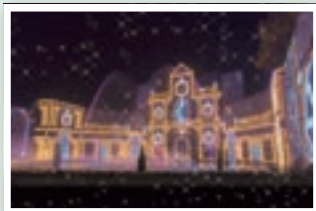
12月

1月

2月

3月

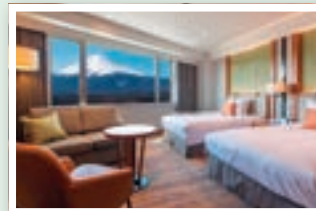
さがみ湖リゾート
プレジャーフォレストで
「さがみ湖イルミリオン」開催



富士急行線ICカード
「Suica」
システム導入



ハイランドリゾート ホテル&スパに、
「グランド・エグゼクティブ・
フロア」誕生



HIGHLAND RESORT
Hotel & Spa

ハイランドリゾート ホテル&スパ

「グランド・エグゼクティブ・フロア」誕生



世界遺産・富士山の麓に位置するハイランドリゾート ホテル&スパは、平成27年3月19日から高層階フロアの客室（10階・11階/全31室）を「グランド・エグゼクティブ・フロア」としてリニューアルオープンいたしました。

▶ 今回のフロアリニューアルは、富士山の世界文化遺産登録により、富士山エリアで需要が高まっている「世界水準のリゾートステイ」を提供するための「ホテルリニューアルプロジェクト」の第一弾です。デザイナーは世界のリゾートホテルのインテリアデザインを数多く手がけ、トップクラスの評価を持つハーシュ・ベドナー・アソシエイツ（HBA）のキャサリン・ドーパー氏を起用。

▶ 客室インテリアデザインに富士の自然を感じる素材感や色彩を取り入れることで、非日常感と上質なくつろぎ空間を演出しました。視界を遮る高い建物が無い、高層階からの眺望はまさに絶景で、富士山側の客室からはダイナミックな富士山ビューを、隣接する遊園地「富士急ハイランド」側の客室からはイルミネーションを存分に堪能することができます。さらに、パティシエ特製のウェルカムスイーツや、心地よいバスタイムを演出する国産の今治正岡タオル、BVLGARIのアメニティをご用意するなど、「上質で温かみのあるリゾートステイ」を感じていただけるようなおもてなしを宿泊中のあらゆる場面でご用意しています。



富士山の玄関口・富士急行線富士山駅から徒歩2分

「富士山ステーションホテル」開業



富士山の玄関口である富士急行線富士山駅から徒歩2分の場所に「富士山ステーションホテル」を平成27年4月16日に開業いたしました。

▶ 「富士山ステーションホテル」は、旧富士吉田シティホテルを改称し、全面改修してオープンしたもので、ダイナミックなアート展示があるロビーや、「自然」と「和」の調和を感じられるモダンな客室など、落ち着きのある日本の美しさ、「和」のテイストを館内各所に取り入れており、国内のお客様はもちろん、ますます増え続ける海外からのお客様にもごゆっくりお寛ぎいただける空間となっております。

河口湖天上山公園カチカチ山ロープウェイに34年ぶりの新車両

カチカチ山ロープウェイ

パノラマビューの新型ゴンドラ登場！



河口湖天上山公園カチカチ山ロープウェイにて新型ゴンドラの運行を、平成27年4月29日より開始いたしました。昭和34年のロープウェイ開業以来3代目のゴンドラで、34年ぶりの新車両導入となります。

▶ “世界遺産富士山・河口湖の眺望と富士五湖の大自然を体感できる展望車両”を意識して、前面には大型ガラス、側面には上下に大きく広がる展望窓を採用し、河口湖の自然を今まで以上に大パノラマで体感できるようデザインしました。また、内装も日本的な吉祥文様で、海外からのお客様にも日本らしさを味わっていただけます。車体の屋根には天上山が舞台とされる昔話「かちかち山」に出てくる“たぬき”と“うさぎ”が駕籠を担いだモニュメントがあり、車両自体も楽しんでいただけます。車内アナウンスは日本語と英語の2か国語で対応し、新たに車内に設けたモニターの映像でも多言語案内を行うことで、ますます増え続ける海外からのお客様にも富士山・河口湖の魅力を伝えてまいります。

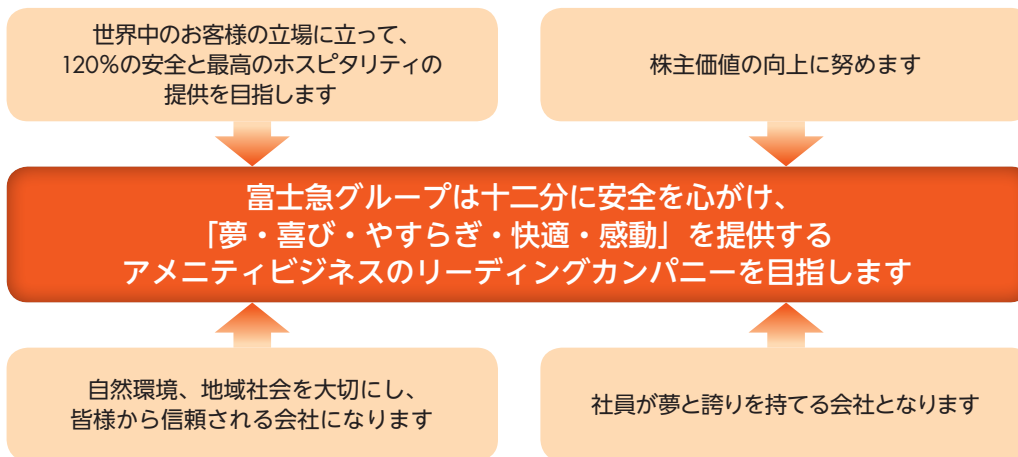
富士急グループ「2015－2017年度」

富士急行株式会社は、経営理念『いつも「喜び・感動」』に基づき、さらなる企業価値の向上を目指し、富士急グループ「2015－2017年度」中期経営計画を策定いたしました。

つきましては、経営戦略としては、「Integrated『Greater富士山』戦略」を推進し、当社グループは十二分に安全を心がけ、「夢・喜び・やすらぎ・快適・感動」を提供するアメニティビジネスのリーディングカンパニーを目指してまいります。

▶ 1. 経営基本方針

- (1) 経営理念
いつも「喜び・感動」
- (2) 経営ビジョン

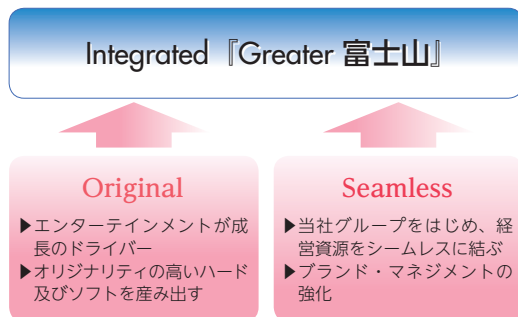


中期経営計画

2. 経営戦略

『Integrated 『Greater 富士山』 戦略』

『Greater 富士山』において、経営資源の一体化による価値向上を図り、国内外の幅広い客層から多面的な需要を取り込みます。



『FUJI-Q RESORTS』ブランドの構築

『Integration』を図る『FUJI-Q RESORTS』ブランドを立ち上げます。



3. 目標とする経営指標

(1) 2016年3月期～2018年3月期の3カ年累計
単位：億円

営業収益	1,596
営業利益	157
経常利益	131
当期純利益 ^(*)	70

※財務諸表上の表記は「親会社株主に帰属する当期純利益」となります。

本中期経営計画の内容は、種々の前提に基づき策定したものでありますが、この計画は、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により変動する可能性があることをご留意ください。

(参考) 2013年3月期～2015年3月期の3カ年累計
単位：億円

営業収益	1,414
営業利益	116
経常利益	94
当期純利益	48

(2) 有利子負債

単位：億円

	2015年 3月期	2018年 3月期
有利子負債 (金融機関借入金)	528	518
リース債務 (オフバランスリース含む)	54	72

(3) 資産効率

持続的な向上を目指します。

単位：%

	2015年 3月期	2018年 3月期
ROA (総資産経常利益率)	3.9	4.7以上

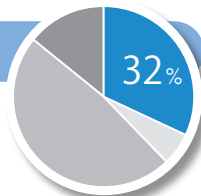
(4) 株主還元

連結配当性向30%を目途に安定的な配当を継続します。

事業別概況（連結）



運輸事業



鉄道事業につきましては、7月に富士山・富士五湖観光の玄関口として大月駅をリニューアルするとともに、新型フジサン特急の運行を開始しました。また、JR東日本と連携し成田空港駅から河口湖駅までの直通列車「成田エクスプレス」を運行し、首都圏からのアクセス向上を図りました。さらに、増加する外国人観光客に対応するため、大月駅及び河口湖駅の案内スタッフを増員し、サービス向上に努めました。平成27年3月にはICカード「Suica」システムを導入し、既に交通系ICカードシステムを導入しているバス、タクシーとの一体的な利用が可能となりました。

バス事業における乗合バス営業につきましては、富士急山梨バス株式会社で、4月から河口湖周遊バスの運行間隔を短縮し、輸送力強化を図りました。11月には大月市と小菅村を結ぶ松姫トンネルの開通にあわせ「大月駅・大月中央病院前～小菅の湯線」の運行を開始し、地域間交流及び観光促進に努めました。

高速バス営業につきましては、富士急山梨バス株式会社で、4月に「羽田空港～富士山駅線」を増便し、8月には当社グループ初の九州地方への高速バス「福岡・北九州～静岡・富士山線」の運行を開始し、路線の拡大を図りました。また、株式会社フジエクスプレスで、11月に「横浜～さがみ湖イルミオン線」、12月に「渋谷・二子玉川駅～河口湖駅・富士山駅線」、富士急湘南バス株式会社で、12月に「センター北駅・たまプラーザ駅～イエティ線」を新設しました。

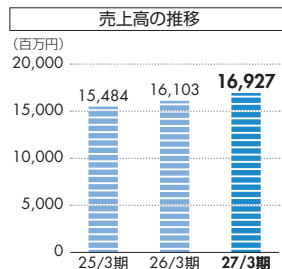
貸切バス事業につきましては、国土交通省が定めた安全確保及び乗務員の労働環境改善に関わるコストを反映した新運賃制度を遵守し、収益の確保に努めました。

運輸事業の健全化の一環として、運転士や車両等の効率的な運用を図るため12月に富士急山梨バス株式会社と富士急平和観光株式会社を合併しました。また、平成27年2月に甲州市、山梨市を営業基盤とする甲州タクシー株式会社を子会社とし、事業の拡大を図りました。

船舶事業につきましては、10月に富士汽船株式会社で、山中湖遊覧船「白鳥の湖号」の待合室を、多目的スペースや展望デッキを備えた「スワンボートハウス」にリニューアルしました。

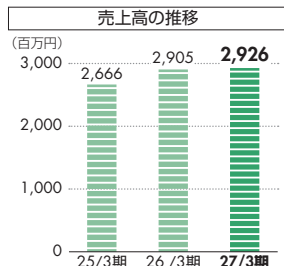
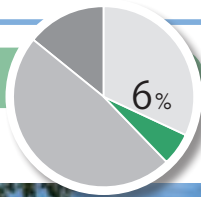
運輸事業につきましては、安全管理体制の構築、安全意識の浸透を図ることを目的とした運輸安全マネジメントに基づき、鉄道、索道、自動車、船舶の各事業で安全目標、重点施策を設定し、一層の安全確保の継続に努めました。鉄道事業では、事業継続計画（BCP）に基づき、鉄道橋の耐震性向上のための橋脚の補強や大雪対応として除雪車を導入しました。バス事業では、衝突被害軽減ブレーキシステム、ドライバーモニタリング警報を装備した車両を導入し、事故防止に努めました。

以上の結果、運輸事業の営業収益は169億27百万円（対前期105.1%）となりました。



「新型フジサン特急8000系」

不動産事業



不動産販売事業につきましては、山中湖畔別荘地で趣味・嗜好を追求できる「コンセプト・ヴィラ」シリーズの販売に加え、ハウスメーカー等とのタイアップを深め、個々のお客様のニーズに沿ったオーダーメイド型別荘建物プランを積極的に提案するとともに、別荘地販売促進Webサイトである「フジヤマスタイル」を核としたソーシャルネットワークサービスによる宣伝告知を強化し、注文建売別荘を受注、販売しました。また、山中湖畔別荘地・十里木高原別荘地において、快適な別荘ライフを提供するため、季節ごとに開催している各種イベントの充実を図りました。また、御殿場市で宅地を分譲販売しました。

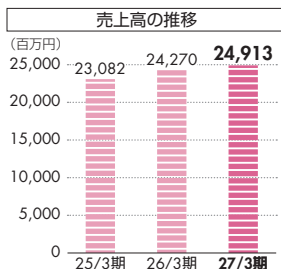
不動産賃貸事業につきましては、賃貸施設の改修を行うなど安定的な収益の確保に努めました。

以上の結果、不動産事業の営業収益は29億26百万円（対前期100.7%）となりました。



「くつろぎの森」(※イメージ)

レジャー・サービス事業



富士急ハイランド「富士飛行社」



遊園地「Grinpa」
「アリス・ト・テレス」



さがみ湖リゾート
プレジャーフォレスト「大空天国」

遊園地事業につきましては、「富士急ハイランド」に、入園目的客のみならず富士五湖エリアを訪れる国内外からの観光客の取り込み施策を当期も継続し、五感で富士山を楽しめる全天候型アトラクション「富士飛行社」を7月にオープンするとともに、「リサとガスパールタウン」で、7月に開業1周年イベントや、12月にプロジェクションマッピングをスケールアップするなど魅力向上を図りました。

富士南麓の遊園地「Grinpa」では、7月にアスレチックシリーズの第三弾「アリス・ト・テレス」をオープンし好評を博しました。また、「天空のチューリップ祭り」や冬のアクティビティが楽しめる「雪遊び」など季節に即したイベントを開催し、国内外の幅広い層のお客様にご来場いただきました。16年連続で日本一早く10月にオープンしたスノータウン「Yeti」は、首都圏からのライナーバスの増便等により、多くのお客様にご利用いただきました。

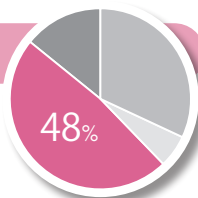
「さがみ湖リゾート プレジャーフォレスト」では、7月に初の絶叫アトラクション「大空天国」、夏期限定の水遊びエリア「じゃぶじゃぶパラダイス」をオープンし、施設の拡充に取り組みました。また、11月から本年度で6回目となる関東最大の500万球のイルミネーションの祭典「さがみ湖イルミリオン」を開催し、過去最高の約36万人のお客様にご来場いただきました。

ホテル事業につきましては、「ハイランドリゾート ホテル&スパ」で、平成27年3月に外国人デザイナーを起用し、高層階フロアを「グランド・エグゼクティブ・フロア」としてリニューアルしました。また、「熱海シーサイド・スパ&リゾート」では、12月に客室の改装と貸切風呂を新設しました。

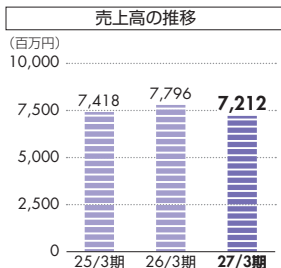
富士本栖湖リゾートでは、「2014富士桜まつり」を開催し、団体客や外国人観光客の増加により過去最高の約45万人のお客様にご来場いただきました。

アウトドアリゾートを展開する株式会社フジヤマ・クオリティは、秩父市の「秩父ミュージックパーク」で、秩父市から運営許可を受け「PICA秩父」の営業を4月から開始しました。

以上の結果、ゴルフ場事業を含めたレジャー・サービス事業の営業収益は249億13百万円（対前期102.7%）となりました。

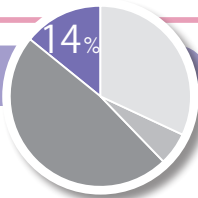


その他事業



富士急建設株式会社では、民間工事の受注は順調に推移したものの公共工事の受注が減少し、富士ミネラルウォーター株式会社では、当期も非常用保存水の販売が減少しました。

以上の結果、その他事業の営業収益は72億12百万円（対前期92.5%）となりました。



連結財務諸表



連結貸借対照表 (要旨)

単位：百万円

科 目	期 別		科 目	期 別	
	当連結会計年度 (平成27年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成26年3月31日現在)		当連結会計年度 (平成27年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成26年3月31日現在)
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	23,803	22,959	流動負債	25,127	23,913
現金及び預金	9,791	9,489	支払手形及び買掛金	2,584	2,445
受取手形及び売掛金	2,707	2,778	短期借入金	15,469	15,278
たな卸資産	9,514	9,633	賞与引当金	441	426
その他	1,789	1,058	その他	6,631	5,763
固定資産	72,095	69,390	固定負債	48,344	48,543
有形固定資産	57,882	57,142	長期借入金	37,298	38,557
建物及び構築物	27,975	28,001	退職給付に係る負債	930	973
機械装置及び運搬具	6,334	5,540	その他	10,115	9,012
土地	16,218	16,306	負債合計	73,471	72,457
建設仮勘定	827	1,580	(純資産の部)		
その他	6,527	5,713	株主資本	19,148	17,701
無形固定資産	3,417	3,261	資本金	9,126	9,126
投資その他の資産	10,796	8,987	資本剰余金	3,426	3,426
投資有価証券	6,256	5,477	利益剰余金	8,109	6,633
退職給付に係る資産	3,201	2,067	自己株式	△1,513	△1,484
その他	1,338	1,441	その他の包括利益累計額	2,569	1,457
資産合計	95,899	92,350	その他有価証券評価差額金	1,064	560
			退職給付に係る調整累計額	1,504	897
			少数株主持分	710	733
			純資産合計	22,428	19,892
			負債純資産合計	95,899	92,350

連結損益計算書（要旨）

単位：百万円

科 目	期 別	当連結会計年度	前連結会計年度
		(平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	(平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)
営業収益		48,971	47,695
営業費		44,623	43,843
営業利益		4,348	3,851
営業外収益		275	318
営業外費用		928	1,048
経常利益		3,694	3,121
特別利益		977	475
特別損失		1,430	1,112
税金等調整前当期純利益		3,242	2,483
法人税、住民税及び事業税		1,009	938
法人税等調整額		118	△8
少数株主損益調整前当期純利益		2,114	1,554
少数株主利益		55	69
当期純利益		2,058	1,484

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

単位：百万円

科 目	期 別	当連結会計年度	前連結会計年度
		(平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	(平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		8,261	7,347
税金等調整前当期純利益		3,242	2,483
減価償却費		5,322	5,126
その他損益等調整額		842	1,164
資産・負債の増減額		416	490
小計		9,824	9,265
利息の支払額等		△1,563	△1,917
投資活動によるキャッシュ・フロー		△6,039	△6,453
有形固定資産の取得による支出		△6,705	△6,891
その他		666	437
財務活動によるキャッシュ・フロー		△1,941	△2,463
借入金の増減額		△1,067	△1,026
その他		△873	△1,437
現金及び現金同等物の増減額		281	△1,569
現金及び現金同等物の期首残高		9,418	10,988
現金及び現金同等物の期末残高		9,700	9,418

連結株主資本等変動計算書（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）

単位：百万円

	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	9,126	3,426	6,633	△1,484	17,701	560	897	1,457	733	19,892
会計方針の変更による 累積的影響額			△52		△52					△52
会計方針の変更を反映した 当期首残高	9,126	3,426	6,581	△1,484	17,649	560	897	1,457	733	19,840
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△529		△529					△529
当期純利益			2,058		2,058					2,058
自己株式の取得				△29	△29					△29
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額（純額）						504	607	1,111	△22	1,088
連結会計年度中の変動額合計			1,528	△29	1,499	504	607	1,111	△22	2,587
当期末残高	9,126	3,426	8,109	△1,513	19,148	1,064	1,504	2,569	710	22,428

単独財務諸表



貸借対照表 (要旨)

単位：百万円

科 目	期 別	第114期 (平成27年3月31日現在)	第113期 (平成26年3月31日現在)
(資産の部)			
流動資産		21,120	20,202
現金及び預金		8,865	8,536
未収運賃		536	461
未収金		1,582	929
たな卸資産		8,365	8,521
その他の流動資産		1,770	1,754
固定資産		60,517	59,132
鉄道事業固定資産		4,087	3,806
自動車事業固定資産		4,322	4,396
観光事業固定資産		30,440	28,937
土地建物事業固定資産		8,563	8,481
各事業関連固定資産		1,885	1,900
その他の固定資産		260	340
建設仮勘定		540	1,499
投資その他の資産		10,414	9,770
投資有価証券		6,725	5,913
長期貸付金		2,256	2,699
その他の投資等		1,447	1,169
貸倒引当金		△14	△12
資産合計		81,637	79,335

科 目	期 別	第114期 (平成27年3月31日現在)	第113期 (平成26年3月31日現在)
(負債の部)			
流動負債		21,717	20,251
短期借入金		13,859	13,583
未払金		2,983	2,633
賞与引当金		70	58
その他の流動負債		4,804	3,976
固定負債		43,004	43,255
長期借入金		36,197	37,277
預り保証金		3,676	3,703
その他の固定負債		3,129	2,274
負債合計		64,721	63,507
(純資産の部)			
株主資本		15,947	15,332
資本金		9,126	9,126
資本剰余金		3,400	3,400
利益剰余金		4,640	4,019
自己株式		△1,219	△1,213
評価・換算差額等		968	495
その他有価証券評価差額金		968	495
純資産合計		16,915	15,828
負債純資産合計		81,637	79,335

損益計算書（要旨）

単位：百万円

科 目	期 別	
	第114期 (平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	第113期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)
鉄道事業		
営業収益	1,591	1,513
営業費	1,441	1,326
営業利益	149	186
自動車事業		
営業収益	1,835	1,868
営業費	1,324	1,367
営業利益	511	500
観光事業		
営業収益	20,817	20,131
営業費	18,830	18,565
営業利益	1,987	1,565
土地建物事業		
営業収益	1,967	2,026
営業費	1,506	1,563
営業利益	461	462
全事業営業利益	3,109	2,715

科 目	期 別	
	第114期 (平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	第113期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)
営業外収益	215	217
営業外費用	874	993
経常利益	2,450	1,939
特別利益	762	70
特別損失	1,264	782
税引前当期純利益	1,948	1,226
法人税、住民税及び事業税	620	484
法人税等調整額	121	△7
当期純利益	1,207	749

株主資本等変動計算書（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）

単位：百万円

	株主資本								自己株式	株主資本 合計	評価・換算 差額等 その他 有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			利益剰余金 合計				
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金 別途積立金	繰越利益剰余金					
当期首残高	9,126	2,398	1,001	3,400	1,959	219	1,840	4,019	△1,213	15,332	495	15,828
会計方針の変更による 累積的影響額							△52	△52		△52		△52
会計方針の変更を反映 した当期首残高	9,126	2,398	1,001	3,400	1,959	219	1,787	3,967	△1,213	15,280	495	15,775
当期変動額												
剰余金の配当							△533	△533		△533		△533
当期純利益							1,207	1,207		1,207		1,207
自己株式の取得									△6	△6		△6
株主資本以外の項目の 当期の変動額（純額）											472	472
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	673	673	△6	667	472	1,140
当期末残高	9,126	2,398	1,001	3,400	1,959	219	2,461	4,640	△1,219	15,947	968	16,915

単元未満株式の買取・買増制度のご案内

【単元未満株式の買取請求・買増請求について】

当社の単元株式数は1,000株ですので、1,000株未満の単元未満株式は市場で売買することができません。お持ちの単元未満株式を当社が買い取るか（買取請求）、もしくは1単元である1,000株とするために、当社から単元未満株式を買い増す（買増請求）ことができます。

【単元未満株式の買取・買増制度の概要】

買取制度

ご所有の単元未満株式を当社に買取するよう請求できる制度です。

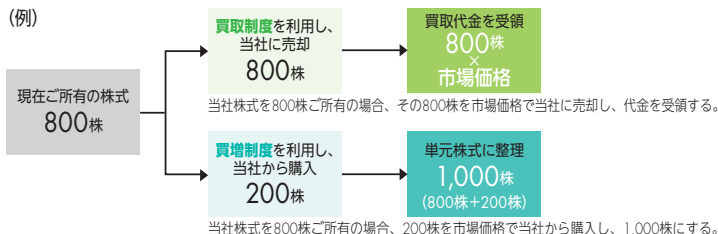
買増制度

ご所有の単元未満株式を1単元（1,000株）の株式にするために必要な数の株式を買増すことを当社に請求できる制度です。

【お手続きについて】

■ 証券会社に口座を開設されている株主様
 口座のある証券会社にお問い合わせください。
 ただし、株券電子化以前に株券が発行されていない単元未満株式（証券会社の口座に記録されているものを除きます）をお持ちであった場合には、株券電子化実施日時点で、単元未満株式は「特別口座」に記録されておりますので、下記の株主メモ記載の三菱UFJ信託銀行電話照会先にお問い合わせください。

■ 証券会社に口座を開設されていない株主様
 単元未満株式は「特別口座」に記録されておりますので、下記の株主メモ記載の三菱UFJ信託銀行電話照会先にお問い合わせください。



当社は1,000株以上ご所有の株主様に株主優待券を発行しております。株主優待については、次ページをご覧ください。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel.0120-232-7111（通話料無料）
上場金融商品取引所	東京証券取引所
公告方法	東京都において発行する日本経済新聞に掲載

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

株主優待のご案内



電車・バス・観光施設 共通優待券



- 電車全線乗車 (1枚につき片道1名乗車)
- バス全線乗車 (1枚につき片道1名乗車)
- 富士急ハイランド (1枚につき1名入園、5枚につきフリーパス1枚と引換)
- ぐりんぱ (1枚につき1名入園、5枚につきワンデークーポン1枚と引換)
- さがみ湖リゾート プレジャーフォレスト (1枚につき1名入園、5枚につきフリーパス1枚と引換)
- スノータウンYeti (5枚につき1日入場滑走券1枚と引換)
- あだたら高原スキー場 (5枚につきリフト1日券またはロープウェイ往復券1枚と引換)
- 初島アイランドリゾート (1枚につき1名入園)
- 天上山公園カチカチ山ロープウェイ (1枚につき1名乗車 (往復))
- 河口湖遊覧船・山中湖遊覧船・本栖湖遊覧船 (1枚につき1名乗船)
- 初島航路 (2枚につき1名乗船 (往復))
- フジヤマミュージアム (1枚につき1名入館)
- ふじやま温泉 (2枚につき大人1名入館、1枚につき小人1名入館)
- さがみ湖温泉 うるり (2枚につき大人1名入館、1枚につき小人1名入館)

フリーパス引換券



- 遊園地フリーパス (富士急ハイランド・ぐりんぱ・さがみ湖リゾート プレジャーフォレスト)
- スキー場一日券 (スノータウンYeti・あだたら高原スキー場)

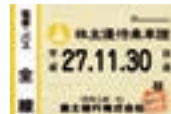
高速バス乗車券



高速バス乗車券

※高速バスご利用について
高速バス乗車券は、中央高速バス「富士五湖～新宿線」「富士山五合目～新宿線」「甲府～新宿線」、東名高速バス「河口湖～東京・市が尾線」「富士宮～東京線」「沼津～新宿・渋谷線」「三島～新宿・渋谷線」の富士急便に限りご利用いただけます。

電車・バス全線 優待バス



電車・バス全線優待バス
(表示された持参人1名)

ご優待の内容

枚数

35,000株以上

40枚

6枚

4枚

1枚

20,000株以上

40枚

5枚

4枚

10,000株以上

25枚

4枚

2枚

5,000株以上

15枚

3枚

1枚

3,000株以上

10枚

2枚

1,000株以上

7枚

1枚

長期保有特別優待券*



「ハイランドリゾート ホテル&スパ」
「ホテルマウント富士」の指定するツイン
ルーム室料100%またはホテル内レスト
ラン利用料30%割引券
(3年に1度の発行となります。)

3枚

2枚

2枚

施設割引券

ご優待の内容	枚数
ハイランドリゾート ホテル&スパ	1枚につき1室室料20% または自社企画宿泊商品 10%割引
ホテルマウント富士	
ホテルマウント富士 プール割引券	20%割引 (1枚につき4 名まで) 2枚
富士宮富士急ホテル	1枚につき1室室料20% または自社企画宿泊商品 10%割引
富士急グループホテル 飲食割引券	レストラン・バー10%割 引(1枚につき4名ま で)、「ホテルマウント富 士」では、食事付入浴10 %割引(1枚につき4名 まで)として利用可。 5枚
富士ゴルフコース	所定 プレー料金 から 2,000円割引 (1枚につ き4名まで)
ゴルフパーク Bandi	パック料金から1,000円 割引、土日祝日2,000円 割引 (1枚につき4名まで) 1枚
大富士ゴルフ場	所定 プレー料金 から 2,000円割引 (1枚につ き4名まで)
ふじやま温泉	入館料 平日大人780円 小人420円 土日祝日 大人1,030円 小人520円 (1枚につき4 名まで)
さがみ湖温泉 うるり	入館料 平日大人800円 小人350円 土日祝日 大人850円 小人350円 (1枚につき4 名まで) 2枚
PICA山中湖ヴォレージ	コテージ1棟(素泊り) 10%割引、レストラン [FUJIYAMA KITCHEN] 5%割引
PICA富士吉田・PICA富 士西湖・キャンピカ富士 ぐりんば・パティントン ペアキャンピンググラウンド	1枚につき1泊1室10%割 引
富士ミネラルウォーター	1枚につき20%割引 (1 ケース以上) 1枚
富士急トラベル	パッケージ旅行代金の5% 割引 (1枚につき4名まで)
富士急ハイランドQ-BOWL (ボウリング場)	1ゲーム平日、土日祝日 とも410円 (1枚につき4 名まで) 2枚
富士急オートサービス	車検・点検・整備 工賃 10%割引 1枚

● 株主優待券の発行時期及び有効期間

当社の株主優待は毎年3月31日及び9月30日現在で
1,000株以上ご所有の、株主様のご所有株式数に応じて
それぞれ5月下旬、11月下旬に発行いたします。

	発行時期	有効期間
3月31日現在の株主様	5月末	11月30日まで
9月30日現在の株主様	11月末	翌年5月31日まで

注) 長期保有特別優待券の有効期間に限り、「1年間」といたします。

● 長期保有特別優待券について*

■ 長期保有特別優待券は過去3年間すべての基準日(3月
31日、9月30日)の株主名簿において、対象となる株式
数以上を継続して保有し、かつ株主番号または氏名・住
所が継続して同一である株主様へ**3年経過ごと**に発行し
ております。**(3年に1度の発行となります。)**

相続による名義人の変更があった場合、また、継続保
有されている株主様であっても基準日現在において、何
らかの理由で同一の株主名簿上に対象株式数を保有し
ていない場合は対象となりませんのでご注意ください。

■ 長期保有特別優待券は年末年始、ゴールデンウィーク、
夏期ハイシーズン等ホテルが定めた日のご宿泊にはご
利用いただけません。またレストラン利用料の割引額
の上限は3万円といたします。
その他、ご利用方法については優待券の裏面をご覧ください。



富士急行株式会社

本社：山梨県富士吉田市新西原五丁目2番1号
東京本社：東京都渋谷区初台一丁目55番7号

<http://www.fujikyū.co.jp/>



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用しています。
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。